

2009年度事務職員能力認定制度に基づく 研修会を受講して

法律事務所職員 増田 直子

研修スタート！

昨年10月から「2009年度事務職員能力認定制度に基づく研修会」がスタートした。この講座は法律事務所に通算して2年以上勤務する事務職員を対象に実施されるもので、本年5月までの間に全8回、月1回のペースで、土曜日の午後を利用して2時間行われた。楽しい休日を返上して研修を受講したその先には…楽しくない(?)能力認定試験が待ち受けている。そんな複雑な思いを抱いての研修スタートだった。

そもそも論の「そもそも」が…

全8回の講座は、私たち事務職員が日常業務で取り扱うテーマを取り上げて、「民事訴訟の流れ」から始まり、最後は「事務職員倫理」で終了した。講座を受講していると、自分では知っていたつもりなのが実はあまりよく理解できていなくてショックを受けてしまったり、また、今更人に聞けないような「そもそもどうしてこうなるの?」の「そもそも」の部分の「謎」が解明されて感激したりと、様々な気持ちの交差した研修会だった。このような系統だった研修を受講したからこそ、初めの一步から改めて新鮮な気持ちで学ぶことができたので、研修を受講することの重要性を感じた。

日々研鑽の大切さを痛感して

テキストを前に講師の話を受けば、「フムフム…」と納得し、理解したつもりになる。しかし、一度テキストを読み講師の話聞いたからといって、普通の人は時間が経てば「あの時間いたな…」の世界になり、記憶

は定かでなくなる。ましてや実際に実務にてその事案に携わらない限り、一度講義を受け学習したことすべてを理解し、記憶の中に留めておくことは難しい。私達はスーパーマンではない、ごく普通の人間だ。だからこそ何度もテキストを読み返す、根拠となる法令を調べる等日々研鑽を積むことが大切になり、そうすることが結局は、私たちが日常携わる仕事を理解する近道になってくるのだということを、この研修会を通して改めて痛感している。

「努力は人を裏切らない」

そうは言っても、日々研鑽を積むということは当り前のこととは言え、なかなか容易にできるものではない。ある意味、自分との戦いになってくる。大リーグマリナーズのイチロー選手は「努力は人を裏切らない」と言ったが、彼が大リーグで樹立した毎年連続200本安打達成という偉業は、まさに彼の努力から生み出されたもので、不断の努力なしに事務職員の能力アップはあり得ない。

受講することに意義がある

研修のフィニッシュに試験が待っていて、そこで合否が判定されてしまうのはあまりいい気持ちではないが、合否が出るということは、自分の理解度を知るメルクマールの一つにはなる。だがそんなことよりも、この研修会を受講することにより、学び、そして自分の知識を磨き理解を深めていく。そのことが重要であり、私は「受講することにこそ意義がある」と思っている。